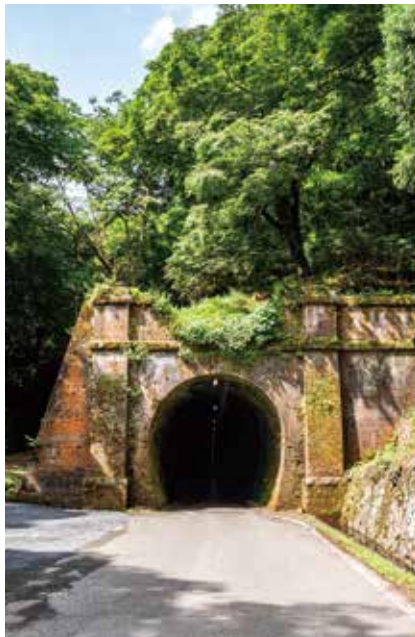




(写真上)「敦賀市立博物館」は北陸で初めて電動エレベーターが設置された建物(写真下)第二次世界大戦中にユダヤ系の難民を受け入れた当時の建物を再現した「敦賀ムゼウム」



旧北陸線最長トンネル

敦賀市と南越前町の間、1170mもの距離を開通させた山中トンネルは明治29年に竣工されました。岩盤が固く、開通までに3年の月日を要しました



北陸のハワイ「水島」

鮮やかなブルーの海と白い砂浜が続く敦賀半島沖の無人島。その奇跡的な美しさから「北陸のハワイ」とも呼ばれています。夏の期間だけ渡し舟で島に行くことができ、多くの海水浴客が訪れています



天皇陛下も見惚れた絶景

旧北陸線の杉津駅から見た車窓の風景は北陸屈指の美しさで、大正天皇がお召列車で通過したときも見惚れたと言われています。現在は北陸自動車道上りの杉津パーキングエリアになっており、当時と変わらぬ絶景を楽しむことができます。



敦賀赤レンガ倉庫

tsuruga 敦賀

大陸への玄関口として栄えた港湾都市。

かつて東京とパリをつなぐ「欧亜国際連絡列車」の玄関口として、国際港の1つに数えられていた敦賀港。敦賀の地名が朝鮮半島の王子に由来するなど、古来より大陸との交流が深かった第2次大戦時は杉原千蔵（すぎはら ちげい）によって多くのユダヤ難民が上陸した国内唯一の港でもあります。

この地は京都に近い海の街だけに、平清盛の時代から運河計画などが上がっていました。その悲願が達成されたのが、明治6年の長浜―敦賀間の鉄道敷設でした。その後鉄道は北進し、さらに險しい敦賀―今庄間のトンネルも明治26年に開通。鉄道によって繁栄がもたらされたのです。

現在、その線路跡は道路となり、当時のトンネル群やかつての繁栄を偲ぶ建築物などは、令和2年に「日本遺産」に認定されています。



県境にある宿場町「熊川宿」

小浜を起点とする物流街道「鯖街道」。福井と京都の県境には、当時200戸を超えるほどの賑わいを見せた宿場町・熊川宿がありました。ここには異なる様式の建物が並んで建つなどの特長があり、平成8年(1996)には国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました



まるで宝石のような「水晶浜」

敦賀半島の西側にはきれいなビーチが点在しています。その中の一つ、まるで宝石のように美しい海と砂浜から名付けられたのが「水晶浜」です。毎年県内外から多くの海水浴客が訪れています



道徳心を養う「佐久間記念交流会館」

潜水艇の訓練中に沈没するも、息絶えるまで職務を全うし、その姿勢を世界中が称賛する明治時代の日本海軍大尉・佐久間勲艦長の資料館。彼の高潔な生き様と、人として生きるための道徳心を学ぶことができます



mihama . wakasa 美浜・若狭

悠久の時を経て神秘さをまとう五色に輝く湖。



山頂公園の各所には、三方五湖や若狭湾の絶景をゆったりと満喫できる空間が設置されています。足湯に浸かりながらのひとときは開放感抜群

美浜町と若狭町の間には5つの湖(三方湖、水月湖、菅湖、久々子湖、日向湖)がつながりながら位置しており、その総称を「三方五湖」と呼んでいます。水が久々子湖を通じて他の湖に渡ることによって塩分濃度に差ができるため、水面の色がそれぞれ違うという神秘的な湖です。

この風景を見渡すことができるのが梅丈岳の山頂にあるレインボーライン山頂公園。リフトに乗って行く先にある天空のテラスは、足湯に浸かりながら絶景を眺めたり、ソファに横たわってのんびりしたりと、リフレッシュできるスポットです。



重要文化財を巡る旅を

重要文化財や国宝が数多く点在する小浜市では、国宝めぐりを楽しむこともできます。写真は羽賀寺に安置されている木造十一面観音菩薩立像(重要文化財)です



奈良・東大寺へ続く「お水送り」

3月12日に奈良県の東大寺で行なわれる「お水取り」に呼応する神事「お水送り」が3月2日に小浜市の神宮寺で執り行なわれます



人魚伝説が残る「入定洞」

人魚の肉を食べて800年生きたという伝説が残る尼僧・八百比丘尼。空印寺に残る彼女が最期を迎えた洞には、健康長寿を願う人が多く訪れています



神宮寺



北前船繁栄の名残「三丁町」

紅殻格子が道に沿って続く、茶屋町の名残を残す町並み「三丁町」。細い路地のどこからか聞こえてくる三味線の音が、北前船で栄えた港町小浜の風情を今に伝えてくれます。カフェや食事処などで落ち着いたひとときを過ごすのもおすすめです

obama 小浜

都への物資拠点は豊かな文化を有する「海のある奈良」。

奈良時代、朝廷へ献上する食物の産地であった「御食国」。全国に点在していたとされる御食国の一つが若狭国でした。リアス式海岸が広がることで波が穏やかな海は漁場としても優良で、時代が下っても都へ物資を運ぶ流通経路として重宝されていました。

小浜の海から揚がる魚介類の中でも多かったのが鯖。そこから鯖を使った食文化も生まれ、後世になり物流街道は「鯖街道」と呼ばれるようになりました。

人が集まれば文化も集まり、寺社仏閣が次々と建立され、北前船による交流が生んだ茶屋町も栄えました。現在もなお人口当たりの寺社数は全国トップクラス。国宝をはじめとする仏像や仏閣も点在し、「海のある奈良」とも呼ばれる所以でもあります。

その名残りが今も色濃く残る町並みを散策しながら、往時の賑わいを偲んでください。



夜空に舞う炎の舞「若狭おおいのスーパー大火勢」

おおい町に300年以上にわたって伝わる祭事「大火勢」をモチーフにした、豪快な炎のイベントが「若狭おおいのスーパー大火勢」です。全長20m、重さは1トンを数える炎柱が夜空を焦がすように舞う様は、観る人を圧倒します



(写真上)高浜町の西端の目引^{ひびき}地区には美しい棚田の風景が残っており、田植えのシーズンには多くの写真家が集まります
(写真下)おおい町出身の作家・水上勉氏が設立した「若州一滴文庫」では、文化・芸術の拠点としてさまざまなイベントが開催されています



若狭和田ビーチ



伝説が残る名瀑「野鹿の滝」

若狭地方最大級の落差を持つこの滝には、敗戦で逃げてきた安倍家の別当石王丸が、薬師如来像から逃げ道を教わった伝説が残っています



6年に1度の奇祭「高浜七年祭り」

佐伎治神社の例大祭であり、6年に1度、祭りは1週間をかけて執り行なわれます。県内屈指の奇祭ともいえます

ohi . takahama おおい・高浜

大自然が教えてくれる、福井のもう一つの魅力。

福井県南西部に位置するおおい町・高浜町。自慢はなんと言っても透き通った美しい海。なかでも高浜町の若狭和田ビーチは、国際的に優れた海水浴場として認める「ブルーフラッグ」を平成28年にアジアで初めて取得しました。毎年の取得に町の人も尽力し、まさに「アジアで一番きれいなビーチ」ともいえるこの浜には、夏になると関西圏などから大勢の観光客が訪れます。

見渡せば海、そのなかで圧倒的存在感を放つのが「若狭富士」とも呼ばれる青葉山。この一帯は海と山に囲まれた地域で、緑豊かな自然を生かしたキャンプ場や体験施設もあります。

おおい町名田庄地区では天文に関する施設や星にまつわるイベントも開催されており、このエリアでは山と海の恵みを存分に味わうことができます。



(写真上)三国町には「サンセットビーチ」と名付けられた海水浴場があり、「日本の夕陽百選」にも選ばれている夕陽のスポットです
(写真右)丘の上に建つ郷土資料館「坂井市龍翔博物館」。五層八角のモダンな建物は、明治時代に建てられた龍翔小学校の外観を模しています



(写真右)北陸三大祭の一つに数えられる「三国祭」。勇壮な山車が何台も町を練り歩く様子は必見です
(写真左)福井県最古の鉄筋コンクリート造りの建物は「旧森田銀行本店」。西洋のデザインが施された外観が印象的です



あわら温泉

神秘的な世界の「雄島」

東尋坊からさらに北へ約1km向かうと、周囲約2kmの無人島・雄島が見えてきます。地元の人からも「神の宿る島」と伝えられてきただけであり、全長224mの長い朱塗りの橋を渡ると、その神秘的な雰囲気を感じずにいられません。島の反対側には、波で浸食された、東尋坊にも負けないほどの柱状節理が広がっています。遊歩道も完備しています



mikuni . awara 三国・あわら

日本海が育む自然の芸術と奇跡の美味。

福井県北部に位置する坂井市三国町は、江戸～明治期に本州と北海道との物流を担っていた北前船(きたまえぶね)の寄港地でもあった港町です。福井平野を流れる大きな3つの川(九頭竜川・足羽川・日野川)の最終地点でもあり、川を遡上していくと、やがて福井の中心部へと繋がることから、三国は県外・県内を結ぶ物流拠点として栄えており、当時の繁栄がしのばれる町並みも保存されるなど、歴史を感じing風景もあります。

しかし、三国といえば冬の国内最高グルメ「越前がに」の本場。三国のカニが高い評価を得ている理由、それはズワイガニの漁場に一番近い港がある、ということです。生きたまま港に水揚げできるので、鮮度が非常に高いままいただくことができます。

三国のすぐ近くにあるあわら温泉でも、冬から春にかけて越前がにがふるまわれ、良質な温泉とともに国内外から多くの人が訪れています。



(写真上)「七堂伽藍」の中でもっとも高い場所に位する「法堂(はつどう)」。「さまざまな儀式はこちらで行われています」
 (写真下)永平寺の全景。深い森に囲まれ、荘厳な印象を与えます。門前町にはお土産屋が軒を連ね、ここならではの土産や味覚を楽しむことができます
 (写真左)「七堂伽藍」の手前にある「傘松閣(さんしょうかく)」は広さが156畳もあり、著名な日本画家が描いた花鳥彩色画230枚が天井に描かれています。その中に5枚だけある鯉・唐獅子・リスの絵を見つると、幸運が訪れるとか



永平寺

eiheiiji 永平寺

すべての人がその荘厳さに背筋を伸ばす。

福井県の観光スポットで東尋坊と双壁をなすのが、曹洞宗大本山・永平寺です。道元禪師を開祖とする禪の道場で、現在では全国に1万5000もの寺院があり、永平寺では全国から来た多くの僧(雲水)が日々修行に励んでいます。その修行は道元禪師が780年前に定めた厳しい作法に則るもの。永平寺が持つ厳かな空気は、そんな厳しさから生まれています。

境内の敷地面積は、なんと10万坪。樹齢700年を超える杉の巨木が立ち並び、70あまりの建物が点在しています。その中心にあるのが「七堂伽藍」と呼ばれる7つの建物。すべてが回廊でつながれており、現存しているのは全国でもまれだとか。

永平寺では雲水の修行を体験することもできます。肅々と行われる雲水の日々の暮らしを垣間見てはいかがでしょう。

道元禪師の教え「只管打坐(しかんたざ)」とは、無目的にひたすら坐ること。欲することなく、求めることなく、只(ただ)姿勢を調え、息を調えること。「七堂伽藍」は「山門」「仏殿」「大庫院(だいくいん)」「法堂(はつどう)」「僧堂」「浴室」「東司(とうす)」の7つからなっています。写真右の山門は永平寺で最古の建物で、修行僧が正式に入門する際の最初の入口です





(写真上・下) 苔が美しく広がる平泉寺白山神社の境内。創建は養老元年(717年)とされており、後世になって勢力を強め一大宗教都市となりました。しかし一向一揆によりすべて焼き尽くされています。明治時代の神仏分離令で寺号は廃止されましたが、名称だけが今も残っています
(写真左) 越前からの禅定道は泰澄大師が初めて登拝するときに利用した道です。現在は途中から通行止めになっています



白山連峰

写真提供：石川県観光連盟

hakusan . heisenji 白山・平泉寺

開山1300年。人々が畏れ敬う山。

福井・石川・岐阜をまたぐ白山は、湧き出る水で各地を潤し、それぞれの文化・産業の源にもなり、信仰の対象として人々から崇められてきました。人類未踏の地であり、入山することも畏れ多かつた白山を、福井生まれの僧・泰澄大師は夢に導かれ、今から1300年前に目指しました。道なき道を進み、登頂に成功した後も、この神聖なる場所ので厳しい修行を積み下山します。以後、広範囲に渡る白山信仰が誕生していきます。

入山は3県それぞれに禅定道があり、福井は平泉寺白山神社を起点としています。この地に降り立つと、ピンと張りつめた空気が流れ、静寂が身を包んでいきます。美しい苔が広がる参道を歩けば、心が洗われるかのような気持ちになります。

白山、そして修行の地であった平泉寺白山神社は今も昔も霊験あらたかな地なのです。



歴史を学ぶ 「白山平泉寺歴史探遊館 まほろば」

旧境内にある総合案内施設です。平泉寺や白山神社の歴史や文化に関する資料が展示されています。地域の交流施設としても利用されています

日本一 美しい星空 「六呂師高原」

平泉寺白山神社から車で約10分のところにある高原は、環境省などが実施した全国星空継続観測において、平成17年度に日本一星がきれい認定されました





(写真上) 越前打刃物の共同工房「タケフナイフビレッジ」。実際に職人たちが制作している様子を見学できます。職人の指導で包丁やペーパーナイフを作ることができる体験教室も人気。(写真下) 越前和紙の里にある「パピルス館」の紙漉き体験は小さい子どもから大人まで楽しめる内容です。自分で漉いた和紙でうちわやはがき、名刺などを作ることができ、和紙の産地を訪れたお土産にぴったりです。



(写真上) 毎年10月に鯖江市・越前市・越前町で開催される工房見学イベント「RENEW(リニュー)」。



西山公園

sabae . echizen 鯖江・越前

ものづくりのまちで暮らしを彩る技に触れる。

地元民が熱愛する ご当地グルメを制覇!

「越前おろしそば」「たけふ駅前中華そば」「ボルガライス」が越前市3大ご当地グルメ。越前市内には3つのメニューすべてや2つを組み合わせるセットで提供している店も多く、地元の人に昔から愛され続ける逸品を、好みに合わせて味わってみるのもおすすめです。



福井県嶺北地方の中央部に位置する鯖江市・越前市は多くの伝統工芸品と産業が息づく、ものづくりのまち。

鯖江市は日本有数の「めがねのまち」として知られ、眼鏡産業の歴史や技術を学べる施設が点在しています。伝統工芸「越前漆器」の産地としても名高く、職人の技と器の美しさに触れることができます。

一方、越前市は「越前和紙」の里として1500年以上の歴史を誇り、紙漉き体験や工房見学が人気。古くは越前国の国府が置かれていた地であり、寺や神社が数多く残る武生駅周辺のまちなみでは歴史情緒も楽しめます。

その他、鯖江市の西山公園も人気のスポット。春にはつつじや桜、秋には紅葉と四季を通じて楽しめるほか、愛くるしいレッサーパンダにも会える鯖江市のシンボルです。そして越前市は越前おろしそば発祥の地。そばを含めた「越前市3大ご当地グルメ」にも注目です。



当時の繁栄を偲ぶ邸宅

右近家ならびに中村家の住宅は、当時の北前船主の邸宅として豪華を極めた造りになっています。右近家は現在「北前船主の館 右近家」として資料館となっています。館から山を登っていくと昭和10年に完成した西洋館も見ることができます



越前で最も栄えた宿場町

右記のこれらの峠道を越えた先はすべて今庄宿に到達しており、江戸時代の最盛期には約1300人もの人が住み、55軒もの旅籠が開いていました。さらに南下すると、関所も兼ねた越前最南端の「板取宿」があります。令和3年には「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されました

日本有数の花はす生産地

南越前町南条地区は、日本有数の花はす生産地です。それを象徴するのが「花はす公園」。約1万坪の土地に約130種類の花はすが咲き乱れます。6月下旬～8月上旬が見頃です



先人たちが切り開いた峠道

古代より敦賀から今庄への道のりはとても険しく、さまざまなルートが整備されてきました。山中峠は「最古の北陸道」とも呼ばれ、木ノ芽峠は紫式部から幕末の水戸浪士までが通り、板ノ木峠は柴田勝家が安土城へ向かう最短距離として整備されました



北前船の模型

minamiechizen 南越前

2つの日本遺産を有する海山里の町。

京都から北陸に向かう際に困難な道のりであった木ノ芽峠。その先に広がっていたのは宿場町・今庄宿でした。その旧今庄町と旧南条町、旧河野村が平成17年に合併した「南越前町」は、海と山と里が一体となった風光明媚な町です。

南越前町は敦賀市・滋賀県長浜市とともに鉄道遺産、そして全国「の港町」とともに北前船遺産と、2つの「日本遺産」に認定されている町です。

海側で言えば、北前船の日本海五大船主の一人である右近家をはじめとする船主館群があり、当時の繁栄が偲べれます。山側で言えば苦難を乗り越えて完成した、敦賀ー今庄間のトンネル群に、当時の技術の粋を見ることができます。

南越前町には、江戸時代から明治時代へと変わりゆく街が今も残っています。



スイッチバックの停車場が駅

敦賀ー今庄間の鉄道で、蒸気機関車は急な坂を上らなくてはならず、スイッチバック方式で運転していました。大桐駅跡は元々駅ではなく、スイッチバックのために停車する場所でした。しかし住民の強い要望により駅へと昇格。現在は「DS1」の車輪がモニュメントとして置かれています